

令和4年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 青山 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語、算数、理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語、算数、理科)

教科に関する調査(国語、算数、理科)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査

○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

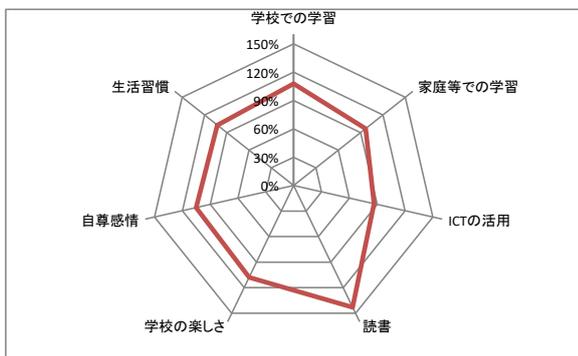
(1) 全国・本市の学力調査(国語、算数、理科)の結果

本年度の結果	国語		算数		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.9	64	9.8	61	10.4	61
全国	9.2	66	10.1	63	10.8	63

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	互いの立場や意図を明確にしながら、自分の考えをまとめる問題や、人物像や物語の全体像を具体的に想像する問題の正答率が高かった。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことを中心に捉える互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、自分の考えをまとめること	
	努力が必要な問題	基礎的な漢字の書き取りや、文章全体の構成、書き表し方などに着目して文章を整えること	
算数	全体的な傾向や特徴など	どの領域も全体的に全国・県の平均を上回り、数学的な思考力が育っている。特に変化と数量に関する問題率の正答率が高かった。記述による説明を行う問題を日々の学習に位置づけて取り組むとさらに力が伸ばせる。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	分類整理されたデータを基に、目的に応じてデータの特徴を捉え考察すること。	
	努力が必要な問題	伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、未知の数量の求め方と答えを記述することや、示されたプログラムについて、正三角形をかくことができる正しいプログラムに書き直すこと	
理科	全体的な傾向や特徴など	どの領域も全体的に全国・県の平均を上回り、理科の見方、考え方を働かせる力が育っている。実験器具の名称や短くまとめて実験結果を書くことなどの問題の習熟が必要である。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	問題を解決するために必要な観察の視点を基に、問題を解決するまでの道筋を構想し、自分の考えをもつことや観察などで得た結果を、結果からいえることの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができる	
	努力が必要な問題	基礎的な知識及び自分で発想した実験の方法と、追加された情報を基に、実験の方法を検討して、改善し、自分の考えをもつこと	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・学校に行くことを肯定している児童が多く、学校内の生活も楽しいと答えた児童が非常に多い。 ・「読書が好き」と回答した児童は多い。今後は、個々の読書時間を増やす取り組みが必要である。 ・自分で課題を見つけ、探求する力をつける取り組みを各教科の中で行っていく。 ・ICTの活用に関して、活用の機会を増やし、対話的な活動ができるようにする。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> ・文章全体の構成を考えた書き表し方や習った感じを積極的に使いこなすことなどは、すべての教科で工夫して行うことで、児童の学力向上につなげていく。 ・ICTの活用で、対話的な学習の充実を図る。さらに、基礎・基本の定着と、課題のある問題に対するの定着を図る取り組みを行う。
--

② 家庭生活習慣等に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> ・学校だより、学年通信、保健だよりや入学式、各説明会などの保護者会を通して、生活習慣に関する啓発と指導を行い、家庭との連携を図る。 ・「穴生中学校区スタンダード」をもとに、学力・体力・生活のルール・家庭学習や生活習慣などについて共通理解を図り指導していく。
